七二会地区

第27号

住民自治協議会だより

令和３年３月25日　発行：七二会地区住民自治協議会

新たな明るい春の到来を願って

会長　渡　邉　貴　則

平成29年９月、加藤市長を招き「地域住民が安心安全に暮らせるための拠点整備を」と真っ先に要望した「長野市七二会支所」の新庁舎が完成し５月の連休明けから業務が開始されます。

長野市合併とともに50年余、合同庁舎に代わって鉄骨平屋建てバリアフリーの事務室に、支所とは別に住自協事務室、地域に関係した行事にも活用できる大会議室が備えられています。

新たな庁舎が地域の安心安全と賑わいの場として、機能が発揮されるよう願うものです。

例年本号では一年の活動報告をその様子とともに報告する任務の紙面でしたが、ご承知のようなコロナ禍にあって地区の行事、守田や笹平の御祭礼同様４月の緊急事態宣言下にあって予定した事業が軒並み中止せざるを得ない状況の一年でした。

地域の生活に欠くことのできない防災、福祉関連事業については、参加者の厳選、感染防止の工夫、安全対策を徹底し事業展開に取り組んできました。

８/１：七二会消防分署主催
　　：区長限定の地域防災力向上研修会
10/21：土尻川砂防事務所出前講座
　　：土砂災害常習地七二会の特性を学ぶ

12/10：社会を明るくする運動・人権教育促進住民大会合同開催
　　：区長、公民館長、民生委員中心に参加者を限定し、初めて合同で開催した。

市街地から至近の距離に在り、犀の流れを麓に、東に浅間の黎明、西にアルプスの峰を厳かに仰ぐふるさと七二会、高齢化と人口減少が進んでも清々と住まうために、発足から10年経た住民自治協議会を中心に関係団体の事業や役回りなど、地域内からの提案も含めて見直し議論が始まりました。

部会毎の検討を基本に議論の深まりに違いはあれ、これからの真に必要かを見極めて進めます。

一方、小中学校のあり方についても地域で議論する必要が迫っています。

新年度、小学校の複式による学級運営が現実のものとなってきています。

建物の老朽化や利用頻度云々とは問題が異なり、百年を超える歴史ある学校の方向性を、こどもの将来を最優先に議論する必要があります。

現在、ＰＴＡの皆さん中心に教育委員会と話し合い（勉強会）が進められていますが、学校に通う児童生徒にとって活力ある学校生活が送れるよう、今後は地域の課題として適切な時期に議論を進めていく必要があると考えます。

11月には加藤市長を訪ね、生活路線の維持、福祉移送も含めた高齢者等の足の確保など学校問題も含め七二会地域に暮らす課題について要望、意見交換してきました。

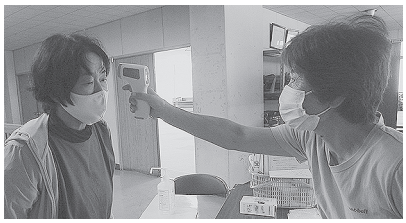
企業や行政の体温で地域の営みに手を入れられるものではありません。

それでも七二会が在り続けるための議論は是が非でも行う必要があります。

新たな春に向かってご理解ご協力をお願いします。

◆新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら地域福祉事業を行っています◆

令和２年度、世界中を震撼させた新型コロナウイルス。やむを得ず、活動自粛を迫られた時期もありましたが、『かがやき健康サロン』『わくわく健康塾』等の通いの場事業を、様々な方のご協力により再開しています。



まずはアルコール消毒から

非接触型体温計で検温

参加者の皆さんに御協力頂いてヨガマット・イスなどを消毒。ハイターの薄め液で拭きます。

定員制とし、１名につき机１個使用で十分に距離を取り、真正面で向き合わないように座ります。

アトラクションのご出演は地区内の方にお願いしています。

１月～３月までかがやき健康サロンは感染症拡大防止対策強化のため会食をなしとし、午前開催とさせていただいています。

特別会計収入支出決算概要（令和元年度）

七二会地区乗合自動車（新じんば号）運行事業

収入決算額	6,939,034円
支出決算額	6,921,156円
差引残額	17,878円（翌年度へ繰越）

（単位：円）

	科目	決算額	付記
収入の部	補助金	6,910,386	市中山間地域乗合自動車運行事業補助金
	負担金	11,000	住自協より
	繰越金	17,647	前年度繰越金
	雑収入	1	貯金利息
	合計	6,939,034	

（単位：円）

	科目	決算額	付記
支出の部	委託料等	6,921,156	運行事業者委託料 （運行実績） 利用者年間　2,766人 一日当たり　9.7人
	合計	6,921,156	

編集後記

陣場平は近くなったか

10年前の３月11日の夜は翌日早朝東北に向かって出発する医療救護隊の救援物資と隊員の活動調度品の確保と積み込みに時間を要し、帰宅は12日の朝、北部地震の揺れが襲う直前だった。

姿を変え、或いは姿を無くした「ふるさと」に、あのとき何もできなかったことへの悔恨の念から、今でも足が向かないという話を耳にする。

あたりまえに、有線で地域の仲間と気楽に話しすることができなくなり、大いに不便を感じている。

青少年山の家ができ、テニスコートも整備され若者が集う場をと、先人が山を削り道を拓いてくれた陣場平。

国道19号からは時間も距離もグンと近くなった、はずだった。

５月には住民サービスの拠点として、支所新庁舎での業務が始まる。

山の家、テニスコートは無くなっても、陣場平は今もあたりまえのように姿を変えずふるさとを見下ろしている。

陣場平が近くなるも遠くなるも、ここに住まうものの想い次第だ。